

J A 自己改革推進レポート（J A 鳥取中央） 3月号

1. 協同の力 飛躍誓う J A 鳥取中央合併25周年記念式典

2月1日、J A 鳥取中央は合併25周年を迎えた。翌日には、湯梨浜町のアロハホールで合併25周年記念式典を行い、生産部や女性会、青壮年部などの各組織代表、平井伸治県知事や中部管内の市町長など約250名の関係者が出席した。

J A 鳥取中央栗原組合長は開会挨拶で、「新たなスタートに当たり、経営理念に掲げる農業愛、人間愛、中央愛の下、持続的な農業・農家、組合員・J A、地域の元気サイクルの継承を目指していく」と力を込めた。

式典では、J A に多大な貢献をした18人に功労者表彰を授与し、優良農業者、優良団体、優良農業者特別表彰を行ったあと、20周年記念式典を行った2018年以降、5年間の経過報告を行った。

また、J A がこれまで歩んだ25年を振り返り、10年後の農業・地域づくりに向け、若手生産者4人が決意表明をした。

記念講演では「協同組合と組合員対話活動の必要性」をテーマに、日本協同組合連携機構（J C A）基礎研究部長の小林元さんが、元気なJ A を築くポイントなどについて解説した。

最後は雑誌「家の光」で「こころ亭久茶の相続&マネー講座」を連載している木崎海洋さんが「相続と終活」をテーマとした落語を披露し、会場を沸かせた。



2. 第24回JA鳥取中央女性大会・家の光大会を開催

JA鳥取中央女性会とJA鳥取中央は2月11日、湯梨浜町で第24回女性大会・家の光大会を開いた。女性会会員やJA役職員など約150人が参加し、持続可能な組織基盤への意識を高めた。

体験発表では、同女性会泊支部の松田祥子さんが『家の光』とともに次世代へつなぐ」と題して発表。記事をきっかけに活動する素晴らしさなど、教育文化活動の重要性を紹介した。また3年ぶりにアトラクションを再開させ、羽合・泊・北条の3支部が創作衣装でダンスを披露し会場を盛り上げた。

女性会の遠藤聖子会長は「今後も人とつながる、前向きでわくわくする活動で女性の力を発揮していこう」と呼びかけ、家の光協会の栗原隆政会長は「家の光を活用して女性の力を結集し、さらに活動の輪を広げ組合員活動を盛り上げてほしい」と話した。

記念講演では、九州大学持続可能な社会のための決断科学センター准教授 比良松道一さんが自炊を通じた若者への食農教育の重要性を解説した。



3. 三朝神倉大豆味噌の製造委託契約を締結

JA鳥取中央は、生産者や行政と連携し、三朝町の地大豆「三朝神倉」を使用した味噌を開発した。今回、商品化される味噌には同町特産の米「きぬむすめ」が使用されており、甘みのあるまろやかな風味が特長。

製造を請け負う「有限会社 小西本店」と昨年の7月に第一回目の試作品検討会を開き、鳥取県中部で好まれる味噌の組成分析や試食会を経て、今年の秋頃の完成を予定している。

同JAは、平成21年に豆腐「神のはな」、24年に納豆の「神のつぶ」、豆乳「神のしずく」、27年に水煮「神のつぶみ」、29年には初のスイーツとして大豆あんを使用したどら焼き「神の笑み」を販売、同JAを代表する特産品としてブランド力の向上を目指す。



以上